

明日の向日 ニュースレター

4 期目

杉谷 伸夫 (71歳)

大阪生まれ、上植野町在住

- ・ 京都大学工学部卒
- ・ 前職GSユアサ
- ・ 2人の父
- ・ 平和活動から政治へ

杉谷公式LINE!
登録してください!

1 期目

林 リエ (48歳)

向日市育ち、寺戸町七ノ坪在住

- ・ 龍谷大学大学院
公共政策学研究科修了
- ・ 前職 ルイ・ヴィトンジャパン
- ・ ハチドリ電力 ・ 3人の母
- ・ 東日本大震災後の福島応援
「ミンナソラノシタ」代表
- ・ 市民活動から政治へ

林公式LINE!
登録してください!令和8年
第2回

定例会 一般質問報告

杉谷 伸夫

■向日市の市民会館の
名称について

6月議会の一般質問で「市民会館」の名称について取り上げました。

「永守重信市民会館」という名称は、向日市が寄贈者との8年前の覚書に基づいて決めたものです。しかし社会状況も変わり、名称変更を願う市民の声が高まっています。

杉谷「市民の要望に従って名称を見直すこともできるのではないかと質問しました。市長「市民会館条例を変更すればできるが、あくまで寄贈者の理解と納得が頂けたら話」「こちら側から一方的に変更することは寄贈者に対する裏切りになる」との答弁でした。私も、向日市が一方的に名称変更することなど求めていません。しかし市民の要望に義があると判断すれば、それが実現できるよう努力するのは市長の仕事です。

今回、別会派の議員も同じ問題を取り上げていたこともあり、市民会館の名称の再検討を求める市民の声を議会の場で正式に伝えることができました。そして寄贈者への敬意を払いつつ、市民要望を実現できる道を探ることを市長に求めました。



全編動画はこちらから

林 リエ

■女性消防団員ゼロ?

全国では女性消防団員が82.7%の市町村に設置されています。京都市内の市で女性消防団員が不在なのは、向日市と長岡京市のみです。

そこで林は女性消防分団の新設を提案しました。

市長「実現は遠い未来ではない」と前向きな回答を頂きました。この3年で本市の女性防災士は急増しており、災害発災時の自助・共助を支える新たな仕組みとして「女性消防分団」の創設が急務だと思います。

一日も早い新設に期待します!

■災害弱者をどう守る?個別避難計画について

大規模災害では死者の6割が高齢者、障がい者は健常者の2倍の割合で命を落とされています。

事前に避難方法を定める「個別避難計画」の策定が急務である。市は8月以降、対象者577名全員に調査票を送付することにしました。

この2年間の策定数はわずか2件です。行政単独での策定が困難であることも明らかになりました。「個別避難計画」は災害弱者の命綱です。まずは社会福祉協議会等と連携、協力して防災体制を構築することが不可欠だと思います。



全編動画はこちらから

会派「明日の向日」この3年間を振り返って

ニデック社との関係づくり

ニデック社がJR向日町駅東側の広大な土地に第二本社ビル群の整備を進め、向日市にとってニデック社は大きな影響のある存在になっています。

ニデック社元会長・永守重信氏が市民会館を建設し、向日市に寄贈されましたが、名称に「向日市」が無く市民から様々な声が出ています。またニデック社が開発中の土地に、向日市が格安の農地課税をしていた事が判明し、杉谷議員も原告となった住民訴訟で「違法」との判決が出されました。また、2年前には向日市が、ニデック社の土地を森本町から分離して、「ニデックパーク」という7番目の町を創りました。私たち会派「明日の向日」は、時期尚早であると反対しましたが、その後発覚したニデック社の大規模な不正会計問題を見れば、私たちの懸念通りになっています。ニデック社と、将来にわたって良好で健全な関係を創っていくために、私たちもその役割を果たして行きたいと思えます。

杉谷

まちづくりに市民の声を!

向日市では現在、①アリーナ整備、②JR向日町駅整備および周辺再開発、③洛西口駅西地区開発、とまちづくりに関わる3つの大きな事業が進行中です。

私たちの議員任期開始直後から動き出したアリーナ問題は、向日市民の生活環境に重大な影響があるため、向日市としても市民の声を聴き、市民の懸念を解消するための対策を求めてきました。交通渋滞やアクセス道路未整備、周辺生活環境への影響などの課題について、解決の具体的な対策は示されないうまま、アリーナは3月から建設工事が始まりましたが、引き続き住民の懸念解決に取り組みます。JR向日町駅周辺の再開発については、西側地域への影響を懸念する声も届いています。洛西口駅西地区開発は、市北部のまちづくりに大きな影響があるのに、市民はほとんど情報も無く関われない状態です。市民に情報を届け、市民の声が活かされる向日市政を求め続けてゆきます。

杉谷

議会改革

京都府内の市で向日市議会だけが未策定だった「議会基本条例」が間もなく完成の見込みです。議会基本条例とは議会の役割や議員の活動原則、市民と議会・行政との関係を定める、地方議会の最高規範です。

策定の過程では、条例案を市民に公開せずに決定しようという意見が出ました。しかし「市民と議会の約束である条例を、市民不在で作るのはおかしい」と主張し、向日市議会初のパブリックコメントの実施が決定。行政の条例策定にはパブコメを求めながら、議会はしないというのでは一貫性がありません。議員が常に大切にすべきは市民の声です。

この3年、会派「明日の向日」が提案してきた議会改革は他にもあります。こども議会の開催、市民と議会の意見交換会、一般質問での一問一答方式の導入(府内で未実施は向日市のみ)、乳幼児を連れた市民が傍聴できる環境整備、議会だよりの抜本的改革、予算決算特別委員会の設置(府内で未設置は向日市のみ/否決)など、開かれた議会を目指して提案し続けてきました。議会基本条例は作って終わりではありません。パブリックコメントへのご協力をぜひお願いします。次は議会BCPの整備へ、歩みを止めません。

林

災害に強い向日市へ!

「向日市は昔、都があったから大きな地震はない」という言葉をよく耳にします。しかし現実を直視すれば、備えなくして災害弱者や市民の命を守ることはできません。

私が政治家を志した原点は、東日本大震災後の福島での活動です。だからこそ、向日市の防災には力を注ぐと選挙公約に掲げ、3年間防災に力を注いできました。

この3年で前進したこともあります。年1回の防災訓練に市民防災士が参加する仕組みができ、市内の女性防災士も大きく増加。避難所の鍵の分散、福祉避難所の増加、個別避難計画策定に向けた準備、女性消防分団の設置検討と、少しずつですが動き始めています。

一方で課題は山積みです。市長はかつて「防災でできることは全部する」と答弁されました。しかし答弁では「現状で大丈夫」という発言が多く、危機感のギャップを感じます。自助・共助を市民に求めるなら、市がもっと伴走することが必要です。防災に終わりはありません。個別避難計画の全件策定、女性消防分団の実現、そして市民と一緒に災害に強い向日市を創るために、これからも全力で取り組みます。

林

チーム明日の向日
市政報告会
& 対話の会

事前
申し込み
不要

2026/8/1(土) 14:30~17:30 in 永守重信市民会館
どなた様も是非いらしてください!向日市の未来を一緒に考えませんか?



詳しくは
こちらから